

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—49211

① Int. Cl.³
B 29 C 27/02
A 63 H 3/52
9/00
// A 41 H 43/04

識別記号

庁内整理番号
7722—4F
6641—2C
6641—2C
7030—3B

④ 公開 昭和56年(1981)5月2日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

⑭ 人形のドレスや表皮等の製造方法

号株式会社タカラ内

⑮ 出 願 人 株式会社タカラ
東京都葛飾区青戸4丁目19番16
号

⑯ 特 願 昭54—124919

⑰ 出 願 昭54(1979)9月28日

⑱ 発 明 者 照井真澄

⑲ 代 理 人 弁理士 志賀富士弥

東京都葛飾区青戸4丁目19番16

明 細 書

1 発明の名称

人形のドレスや表皮等の製造方法

2 特許請求の範囲

(1) 2枚の布地(1)、(2)を重ね合わせ、これら布地(1)、(2)間にポリ塩化ビニールやポリエチレン等の合成樹脂膜(3)を介在させ、該樹脂膜(3)を溶融させて布地(1)、(2)の所定箇所を接ぎ合わせることを特徴とする人形のドレスや表皮等の製造方法。

3 発明の詳細な説明

本発明は人形のドレスや表皮等の製造方法に関するものである。人形のドレスとは文字通り人形に着せるための衣服を云い、また人形の表皮とはぬいぐるみ人形等においてその胴体や四肢等を形作っている布等の表面皮膚をいう。

そして、このような人形のドレスや表皮は適宜の形状に形取りした布地を接ぎ合わせるることにより作られている。

ところで従来は第1図に示したように布地1、2を接ぎ合わせるのに糸3で縫着していたため次に述べるような欠点があつた。

(1) 糸3を使用しての縫着作業は面倒で作業能率が悪い。

(2) このため製品たる人形のドレスや表皮のコストが高くなる。

(3) 糸3が切れたり解れたりしやすい。

本発明は上記の如き欠点を解消するためになされたもので布地を縫着する代わりに布地を溶着して接ぎ合わせるることにより上記従来の欠点を解消したものである。

次に本発明を第2図以下の図面に基づいて説明する。

1, 2は人形のドレスや表皮を構成する布地、3, 3はこれら布地1, 2を接ぎ合わせるために布地1, 2間に介在されたポリ塩化ビニルやポリエチレン等の熱可塑性樹脂膜であり、図面に示す実施例においてこれら樹脂膜3, 3は布地1, 2の裏面にラミネートつまり布地1, 2と一体の層をなすように取付けられていて、布地1, 2を重ね合わせると自づと、これら布地1, 2間に介在されるようになっている。そして4が前記熱可塑性樹脂膜3, 3を溶融させることにより作られた布地1, 2の接ぎ合わせ部であり、該接ぎ合わせ部4は³ウエルダー装置（図示省略）で熱可塑性樹脂膜3, 3を溶融させてこれら樹脂膜3, 3を互に

くつつけ合わせるにより形成されている。

なお図面に示す実施例においては樹脂膜3, 3を溶融させて布地1, 2を接ぎ合わせる際に、これと同時にウエルダー装置で布地1, 2を所定の形状に形成するようにしているが、予め所定の形状に形取りしてある布地1, 2をあとかからウエルダー装置により接ぎ合わせてもよいこと勿論である。

以上説明したように本発明は2枚の布地1, 2を重ね合わせ、これら布地1, 2間にポリ塩化ビニルやポリエチレン等の合成樹脂膜3を介在させ、該樹脂膜3を溶融させて布地1, 2の所定箇所を接ぎ合わせることを特徴とする人形のドレスや表皮等の製造方法であつて次に述べるような効果がある。

3

4

(1) 溶着によつて布地を接ぎ合わせる作業は確着によつて布地を接ぎ合わせる作業に較べて簡単に作業性が良い。

(2) 従つて製品たる人形のドレスや表皮を今迄よりも安くすることが出来る。

(3) また糸を使用していないので従来のように糸が切れて解れたりすることがない。

4 図面の簡単な説明

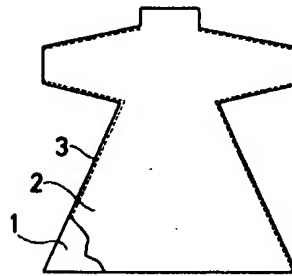
第1図は従来例を示す説明図、第2図以下は本発明例を示し第2図は布地を接ぎ合わせる前の断面図、第3図は布地を接ぎ合わせた後の断面図、第4図は第3図の接部の拡大断面図、第5図は平面図である。

1, 2…布地、3…熱可塑性樹脂膜。

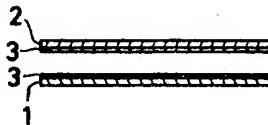
代理人 志 賀 富 士 弥

5

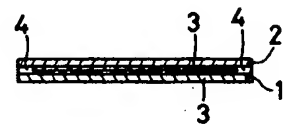
第1図



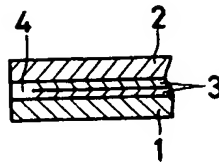
第2図



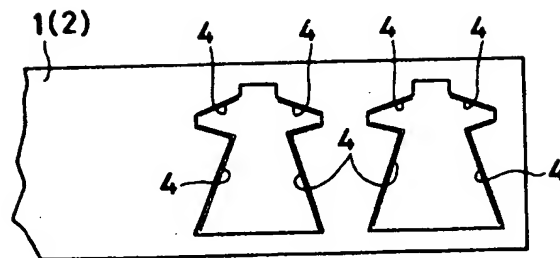
第3図



第 4 図



第 5 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)